

農山漁村振興交付金(最適土地利用総合対策)

【雄武・上幌内地区】 北海道雄武町

1. 地域農業の状況



- 雄武・上幌内地区は、オホーツク海に面した酪農地帯にあり、夏はオホーツク海高気圧の影響を受け気温が上がらず、冬は厳しい豪雪地帯。土壌は、地域特有の重粘土地であり、酪農を中心とした大規模土地利用型農業に特化した地域。

地区の課題と対応方向

- 雄武地区は、オホーツク海に面した酪農地帯にあり、住宅街に隣接した農地であるが、重粘土地であり、耕作放棄された農地が多く、この10年で酪農家が5件減少しており、荒廃農地等が29ha発生。
- 上幌内地区は、幌内川流域の内陸山間地にある酪農地帯であったが、地域特有の重粘土地に加え石礫が多く、収量の低下により耕作が放棄された農地。現在、酪農家は一件も無く、荒廃農地等が24ha発生。
- 両地区とも、牧草の収量が見込めないことから耕作を放棄した草地が多く、笹や雑草が繁茂し、基盤整備しなくては再生できない状況。
- 令和3年4月、農地の荒廃化を未然に防ぐため、本事業の実施地区を選定。協議会の呼びかけにより、町、農業委員会、JA、農地所有者、農業者、地域住民が参画した。



整備前



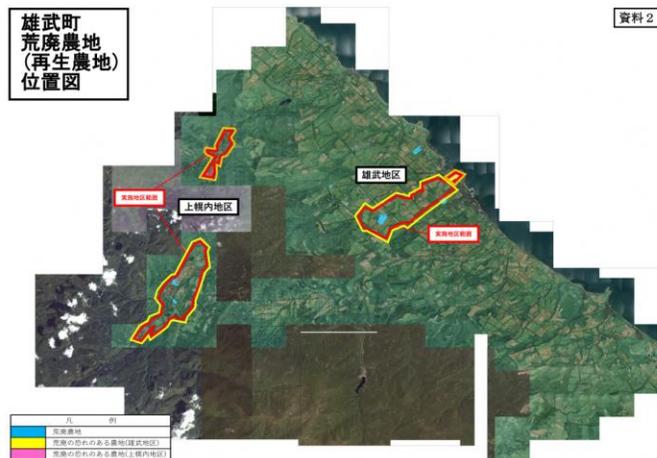
整備後

2. 地区概要

実施主体	雄武町耕作放棄地対策協議会	管理主体	地域協議会
実施面積	519ha	整備面積	19.5ha
作付作物	クローバー、韃靼そば作付け	地域区分	特定、山村、過疎、豪雪

3. 取組の状況及び効果

- 地域の話し合いであがった、「担い手の数が減少している」「隣地の保全管理に手が回らない」「牧草を生産するには、重粘土地、石礫が多い等農地の条件が悪く、基盤整備なしでは生産性が上がらない」などの意見を基に、最適土地利用計画を策定。
- 土壌条件の悪い農地において、緑肥作物の作付け・すき込みによる地力増進で土地の持続性が図られるとともに、低コストな基盤整備による作付面積の拡大により、地域の特産物である韃靼そばの収益向上を図るための体制整備が図られた。



地域内での話し合いの様子



地域の特産物「韃靼そば」

本対策によるこれまでの取組内容

- 最適土地利用計画の策定
- 重機による雑草・笹・木の刈払い及び抜根、その後の雑草等の集積・運搬
- トラクターによる耕起・整地・石礫除去等
- トラクターによる緑肥・鶏糞等の散布
- 土壌診断・収量調査

農山漁村振興交付金(最適土地利用総合対策)

【釜ヶ淵地区】 富山県立山町

1. 地域農業の状況

- 当地区は、立山町の西側に位置し、中央には立山黒部アルペンルートにつながる富山地方鉄道が走っている。
- 作付面積約400haのうち、約65%で食用米、15%で飼料用米が作付けされている。
- 担い手農業者の高齢化の進行、山際での獣害の発生、一部、ほ場整備未実施などから、保全管理のみ行っている農地が多い。

【富山県】



地区の課題と対応方向

- 釜ヶ淵地区は、民家や線路に挟まれ、狭く形が整っていない農地が多く残る地域である。
- 大型の農業機械が入れないため効率的な営農活動が難しく、担い手農家も引受けが難しい状況。
- 加えて農地所有者の高齢化により、農地が適切に管理されず荒廃するとともに、鳥獣被害にも苦慮。
- これらの課題を解決するため、令和3年度に立山町が主体となり、地域の多様な人材を巻き込んで「土地利用」を考えた「最適土地利用対策検討会」を開始。



着工前(放牧)



完成(放牧)



着工前(蜜源)



完成(蜜源)

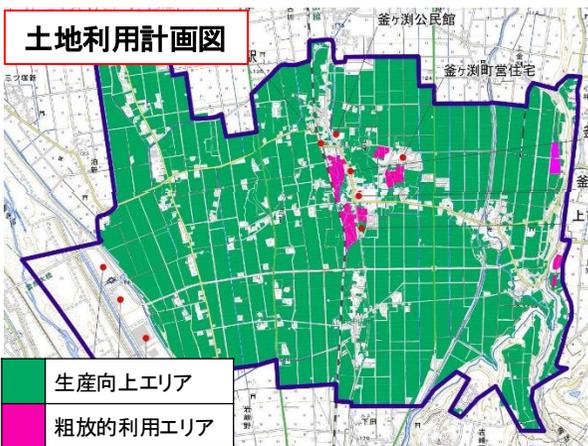
2. 地区概要

事業実施主体	立山町	管理主体	釜ヶ淵みらい協議会
地区農地面積	465ha	整備面積	2.56ha
粗放的利用	蜜源(レンゲ等)、省力化(カモミール等)作物、放牧		
地域区分	特別豪雪地		

3. 取組の状況及び効果

- 話し合いを重ね、管理組織「釜ヶ淵みらい協議会」を設立。また、「生産向上エリア」と耕作条件が悪く、手間と管理経費が少ない「粗放的利用を進めるエリア」に区分した、継続的な農地保全に向けた土地利用計画を作成。
- 令和4年度からは当該土地利用計画をもとに、移住者や地域おこし協力隊の参加も得て、荒廃農地を解消した粗放的利用(カモミール、レンゲ栽培(養蜂利用)、ポニーの放牧)を開始。さらに、令和5年度には特産化が期待できる果樹(じゃばら)栽培の実証に着手。
- 農地保全活動を通じて、人と人とが繋がる新しいコミュニティが形成。線路沿いの荒廃農地にヒマワリを植栽し景観向上、市民農園(釜ヶ淵コミュニティガーデン)や倉庫を改装した交流拠点施設(釜ノ蔵)の開設、イベント等に取り組み、人を呼び込む取組みも始まっている。

土地利用計画図



生産向上エリア

粗放的利用エリア



ポニーの放牧



カモミール畑



レンゲを利用した養蜂



地域内での話し合い

本対策によるこれまでの取組内容

- 地域の話合いを通じた管理組織「釜ヶ淵みらい協議会」の設立、最適土地利用計画の策定
- 粗放的利用のための条件整備(放牧のための電牧器整備、蜜源・省力作物作付のための刈払、耕起・整地等(30a))
- 粗放的利用体制整備(蜜源作物(レンゲ等)17a、省力作物(カモミール等)13a、放牧30a)
- 実証事業(果樹(じゃばら)栽培46aに向け、排水対策整備)

農山漁村振興交付金(最適土地利用総合対策)

【香々地地区】 大分県豊後高田市

1. 地域農業の状況

○ 大分県豊後高田市は、大分県国東半島の西側にあり、香々地地区はその最北に位置し、地域農業は、果樹（オリーブ2.1ha、柑橘1.3ha）を主体に肉用牛の繁殖経営（100頭）が行われている。



○ 本地区では、昭和30～40年代に開拓パイロット事業が実施され整備された農地では主にみかんの栽培が行われてきたが、高齢化や後継者不足から耕作放棄された農地が増加(2.5ha)しているが、中山間地域等直接支払交付金を活用しながら地域内の農地を保全・管理して維持している。

○ 地域農業の担い手は、平成23年に地区外からオリーブ栽培に取り組んでいる農業者(1名)を中心に規模拡大が図られており、近年は果樹や肉用牛の繁殖経営(放牧)に取り組む新規就農者の入植(2名)等もある。

地区の課題と対応方向

- 香々地地区の樹園地跡は40年以上放置されており、再生までの雑木の伐採、除根に苦慮している。
⇒最適土地利用総合対策の取組むことでバックホウによる作業が可能となり農地再生を進めている。
- 品質の良いオリーブ栽培を行うため、日照時間の長い荒廃地を確保する必要がある。
⇒オリーブ栽培適地以外は、レモンの試験栽培に着手。
- オリーブの新芽を食べる鹿対策に苦慮している。
⇒市と連携して鳥獣防護柵の設置を行っている。
- 傾斜地にある段々畑のため、草刈、害虫駆除作業に相当の時間と労力を費やす。
⇒最適土地利用総合対策により、省力化機械の導入を計画し農作業の効率化を計画している。

2. 地区概要

事業実施主体	豊後高田市	管理主体	集落協定
地区農地面積	11.9ha	整備面積	2.3ha
粗放的利用	植林による鳥獣害対策	地域区分	特定、過疎、半島

3. 取組の状況及び効果

○ 認定農業者4名を中心に地域住民と話し合いを重ね、それぞれの農業に適した守るべき農地を土地利用計画に反映。令和5年度に土地利用計画の見直しを行い農地の管理のための粗放的管理を追加した。
○ 令和3年度から整備事業に取り組み、令和5年度までに1.1haの農地の再生を行い、オリーブとレモンの試験栽培に取り組んでいる。
○ 現在、オリーブ栽培面積が約4haに拡大したことで、収量の増加に繋がり、オリーブオイルの販売だけでなく高付加価値の商品開発に取り組んでいる。
また、高品質のオリーブを生産することで県外の高級料理店からのニーズも高く、外国産オリーブの価格高騰もあって販売も期待できる状況である。

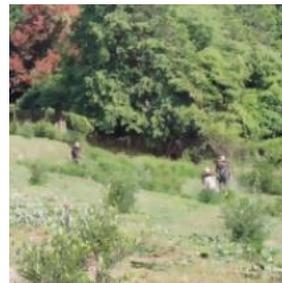
荒廃したみかん園がオリーブ園として再生



ドレッシング、石鹸等商品開発



草刈作業状況



レモンの試験栽培



本対策によるこれまでの取組内容

- 地域の話合いを通じて最適土地利用計画の策定を行うことで地域の農業者間での土地の貸し借りを行うことができ効果的な農地の再生が行えた。
- 令和3年度から事業に取り組み1.1haの最適土地利用整備を行った。
- 国産レモンのニーズが高いことから、再生した農地でレモンの試験栽培を開始した。
- 持続可能な農地保全のため、積極的な商品開発を行った。

農山漁村振興交付金(最適土地利用総合対策)

【田布川地区】 鹿児島県枕崎市

1. 地域農業の状況

- 田布川地区は枕崎市の北部、南さつま市と接する山間部に位置している。集落中心を流れる金山川に沿うように水田が連なり、周辺の丘陵地は畑地帯が広がっている。
- 地域内の畑地帯では、さつまいも、茶、果樹などの生産され、集落周辺の水田では食用米を中心とした作付けが行われている。



地区の課題と対応方向

- 田布川地区では、高齢化、過疎化が進み、地区内の基盤整備された農地でも離農による遊休地・荒廃地が増加。
- サツマイモ基腐病や鳥獣被害の増加から、入り作農家が撤退したため、今後更なる農地の荒廃化が危惧。
- このような中、春先の蜜源植栽の拡大を検討していた近隣市の養蜂農家が着目し、農地バンクや市に相談。
- 令和3年度に枕崎市担い手育成総合支援協議会が主体となり、市内外の多様な組織、地域住民を巻き込み、地域の農地利用についての検討会を実施。
- 5年間で約6.58haの荒廃農地の解消及び遊休農地の発生防止のため、蜜源作物の作付けを行う計画で事業を開始。

着工前(荒廃地)



完成(蜜源作物)



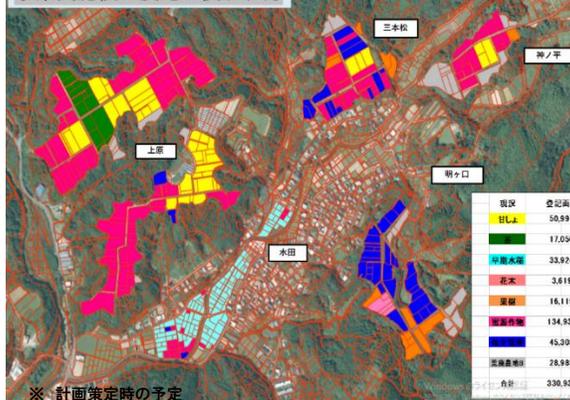
2. 地区概要

事業実施主体	枕崎市担い手育成総合支援協議会	管理主体	夢蛭たぶかわ2016(地域組織)
地区農地面積	33.0ha	整備面積	6.58ha
粗放的利用	蜜源作物(菜種、蓮華、そば等)	地域区分	過疎、半島

3. 取組の状況及び効果

- 市や県、JAなどで構成された既存の協議会を活用し、話し合いの場を設置。地域の荒廃農地の解消及び遊休農地の発生防止のため、蜜源作物を作付けする計画を話し合いにより決定した。
- 計画通り蜜源作物が作付けされ、荒廃農地の解消及び遊休農地の発生防止となっている。また、蜜源作物は蜜蜂が越冬するための栄養源となっており、養蜂農家の生産性の向上にも繋がっている。
- 話し合い活動で計画された養蜂農家による蜜源作物の作付けは、地域組織の収益となっており、活動継続のための財源が確保されるため、地域コミュニティ機能の維持にも寄与している。
- 作付けした蜜源作物は蜜蜂のみの利用でなく、景観作物としても活用されており、過疎化が進む地域への交流人口の増加も期待されている。

事業実施後の農地の使われ方



協議会での話し合いの様子



地域での作付け作業の様子



開花した蜜源の様子(菜種)



養蜂農家の作業風景



本対策によるこれまでの取組内容

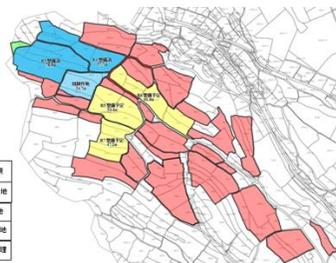
- 話し合い活動を通して、養蜂農家と地域組織とで遊休農地等を活用する体制を構築し、最適土地利用計画の策定
- 蜜源作物の作付け等に関する整備(刈払・抜根、耕地・整地等) 392a)
- 粗放的利用体制整備(蜜源作物(菜種、蓮華、ヘアリーベッチ、そば等) 259a)

農山漁村振興交付金(最適土地利用総合対策)

【羽根地区】大分県豊後高田市

1. 地域農業の状況

- 豊後高田市は大分県の北東部、国東半島の西側にあり、羽根地区は、豊後高田市の最北に位置する漁村集落で地区内の農地10.4haの内3.6haは、半漁半農の農業者(9人)で耕作され、平成20年頃まで葉たばこ、野菜等耕作していた。
- 現在、当地区は専業の漁業者も0人となり地区内の農地の殆どが地区外の認定農業者に貸付を行い大麦若葉0.9haを栽培、条件不利農地については荒廃化が進んでいる。
- 令和3年度から事業の取組みにより、令和5年度までで荒廃農地1.9haの再生を行いボタンボウフウの生産を行っている。



地区の課題と対応方向

- 持続可能な農地活用を行うため、作付けを行うボタンボウフウ(長命草)の販路開拓が必要。
⇒全農おおいた、JAフーズおおいたと連携した商品開発、販路開拓に取り組む
- 品質の高い無農薬のボタンボウフウを効率よく栽培するため、水源の確保と除草機械の導入が必要。
⇒最適土地利用総合対策で生産基盤整備と生産体制を確立。

2. 地区概要

事業実施主体	豊後高田市	管理主体	香々地ベジファーム合同会社
地区農地面積	10.4ha	整備面積	2.98ha
粗放的利用	景観作物(菜の花等)の作付け	地域区分	特定、過疎、半島

3. 取組の状況及び効果

○ 地域での話し合いにより、荒廃農地2.98haの再生しボタンボウフウを生産。また、農地が急傾斜地にあるため農道整備を行う土地利用計画を作成。

○ 農地の賃貸については農地中間管理機構を通じて長期契約を行う。

○ 令和4年度から地域おこし協力隊を採用し生産体制の強化を図っている。

さらに令和5年には管理主体である香々地ボタンボウフウ研究会(任意組織)の法人化を行い販売体制の強化も行った。

○ 持続可能な地域農地の保全と雇用の創出に向けて収益向上を図るため機能性表示食品の商品開発と販路開拓を行っている。

○ 県内外のスーパー、直売所、コンビニエンスストアなど販路の拡大が図れた。



山林化した荒廃農地



令和3年からの農地整備状況



本対策によるこれまでの取組内容

○ 地域の話し合いにより持続可能な農地保全を行う土地利用計画の策定ができ、人農地プランの実質化が図れた。また、令和5年度までで1.9haの農地の再生が行われ、ボタンボウフウの生産面積が拡大したことに伴い管理主体の法人化を行い管理体制の確立が図れた。

○ 最適土地利用総合対策に取り組んだことで、周辺荒廃農地の所有者から管理委託の要望が増加した。

○ 生産量が増加したことに伴い、付加価値の高い商品開発を行うとどこ販路の拡大が図れた。